

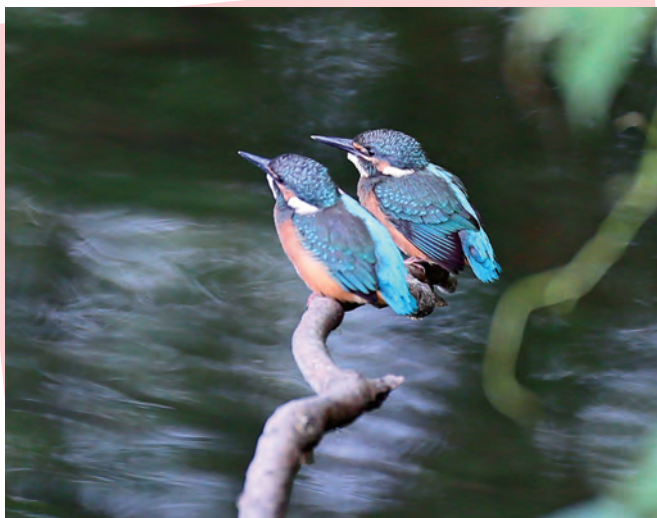
さんぽ木だより

2017
春号
vol.20

友の会会員の皆さまと記念館を結ぶ会報誌

これからこれから
春の鳥たちがやってきて
囀るのだ
これからこれからと
春の花々が咲き出して
告げるのだ
これからこれからと
わたしもわたしに呼びかけて
励んでゆこう

(真民72歳の詩)



カワセミ(松山市・道後公園にて)

館長エッセイ

【第二十回】開館5周年記念特別展について
震災を契機に問いかける、
生き方の道標になれば

真民詩とわたし

自作の手帳で 真民詩をより多くの人に

なかむら つよし
中村 剛志 さん

真民詩を読み解く ⑨

強い信念と人間に対する希望の表れ

「鳥は飛ばねばならぬ」

記念館からのお知らせ

『坂村真民記念館公式ガイドブック』改定版発行

「開館5周年記念特別展」の見どころ

企画展のお知らせ

「坂村真民の世界—すべての人に真民詩を
～ようこそ砥部町へ、ようこそ坂村真民記念館へ～」展の
お知らせ

【第二十回】開館5周年記念特別展について

震災を契機に問いかける、生き方の道標になれば

坂村真民記念館は、平成24年3月11日という特別の日にオープンしました。開館以来この日を含めた3カ月間は、開館記念特別展を開催してきましたが、今年の特別展は5周年という節目の年に当たるため原点に帰り、東日本大震災をメインテーマとして「東日本大震災と坂村真民の詩」とすることにしました。

そして、サブテーマを考えたときに、まず浮かんできたのが「鳥は飛ばねばならぬ 人は生きねばならぬ」でした。それほどこの言葉は、東日本大震災を考えると、多くの人々が「思い浮かべる真民詩」なのです。

この詩の持つ圧倒的なメッセージは、今回の特別展に向けた坂村真民からの「熱いメッセージ」でもあると考えています。

そして、もう一つの特別展に展示される、「あとから来る者のために」と

いう詩も、震災後の人々の生き方に大きな影響を与え、今も与え続けている詩なのです。

この詩は、最初は真民が65歳の時、昭和49年に書かれています。この年は、長い教員生活を終え、詩作一筋に生きることを決めた年でもあり、これからの人生をどう生きてゆくべきか、自分のあとに続いてくる者たちへ、自分は何が出来るのか、というように、主として自分自身に向けて、自分の生き方を問いかける内容になっています。

そして平成13年、真民92歳の時に、宮崎県延岡市の子育て支援センター「おやこの森」が開設されることとなり、この詩を詩碑として建立したいという話があり、92歳の真民が、今生きている我々が、あとから来る者のために、何が出来るのか、そして今生きている人々に向かって、そのあとに続く若い人たちへ、何を残すべきか、そのた

めには何をすべきか、という点に主題を変えて、大幅に詩を書き替えました。こちらが、今では決定詩として、92歳の真民からの、あとに続く者たちへのメッセージとして、広く普及している詩です。

東日本大震災を契機として、多くの日本人が、これまでの生き方や仕事の仕方、家族の絆の大切さ等について、今一度見つめ直すようになり、また、本当の豊かさとは何かということとを真剣に考える人が増えてきている中で、この詩が東北の被災者の方々や、復興に向けて日夜仕事をされている行政機関の方々、そしてその方々の努力を一生懸命応援している全国の人々の間で、「心の支え」として、また「復興への道標」として読まれているのです。

最後に、今回の特別展の目玉として、円覚寺の横田南嶺管長に、被災者への鎮魂と哀別の思いを込めて揮毫

していただいた「真民詩」11点を見逃さないで観覧してください。

愛する人との別れを詠った詩、星となつた人を思う詩、困難の中で生きてゆく気持ちを詠った詩、生きていることの素晴らしさを詠った詩、たくさんの真民詩の中から厳選された、記念館で初公開となる詩が、横田管長の素直な文字で詩墨作品となりました。どうぞ多くの方がご来館くださいますよう、お願い申し上げます。



写真提供:岩手日報社

自作の手帳で 真民詩をより多くの人に

なかむら つよし
中村 剛志 さん(73歳)



砥部町長を11年間勤めた中村剛志さんは、坂村真民記念館の生みの親でもある。真民さんが40年あまり詩作にいそしみ、終焉の地となった砥部から、その言霊(ことだま)を後世につなぎたいという思いが、中村さんを奮い立たせた。現在も多忙な社長業のかたわら、心の拠りどころとなる真民詩を集めた自作手帳を常に携行し、その魅力を伝えている。



◀坂村真民記念館オープン時のテープカット
(平成24年3月11日)

◆緊張した初対面

私が初めてお会いしたのは30年ほど前、ライオンズクラブでの講演のお願いがかかった時です。

営業職で人と会うのは慣れていましたが、「詩人」は初めて。しかも、夕方5時には就寝されるという偉い先生に、午後7時からの講演依頼はとんでもないことだと思えて、もうガチガチでした。ところが、「行きましよう」とご快諾。嬉しかったですね。

◆記念式典でのサプライズ

私が町長在任中の平成18年に真民さんは亡くなりましたが、3年後に生誕100年を記念する集いと詩墨展を企画しました。

準備のため、真民ファンだった父の書棚の本を読み直すうちに、こんな素晴らしい詩人を埋もれさせてはいけないという思いがしたに膨らんでいったのです。

平成21年10月の「生誕100年の集い」には、会場に入りきれないほど多くの真民ファンが全国から駆けつ

け、真民詩が大きく根を張っていることを痛感しました。

その舞台で、講演者の石川洋先生から、「念ずれば花ひらく」と書かれた太い帯封を手渡されたのです。真民碑は世界に何百基とありますが、記念すべき1号碑の原本となった書でした。思いがけないできごとに、感激のあまり涙がポロポロとこぼれ、「なにがあつても真民さんの記念館を作ろう」と、決意が固まりました。

◆3・11のオープン

翌春から会館建設のための寄付募集が始まり、2年後の開館までに約700件、5000万円以上が集まりました。建設反対の声もありましたが、真民さんが砥部に暮らした40年は、理正院での「つゆくさの会」や朴庵での月例会など、充実した活動期であり、町民との交流も盛んだったことから、多くの支持をいただきました。

癒しと勇気をもたらす真民詩によつて、前年に起きた東日本大震災の被災者にも再スタートを切ってほしいとの願いから、震災翌年の3月11日開館を決断しました。会館ができたことで、ファンのすそ野がさらに広がり、地域の活性化にもつながっていると感

じています。

◆自作の手帳でアピール

私は自作の真民手帳をカバンに入れて、時間を見つけては目を通していきます。多くの人に記念館に足を運んでほしいという思いで、人に勧める時にも使っています。

真民詩は素直で穏やか、そして平等の精神にあふれています。「人にはそれぞれ事情があるから、決して人のことを悪く言つてはいけない」と父によく言われました。その戒めは真民さんの思いと重なります。自己主張と闘争心が強かった私が、昔に比べて穏やかになったのは、真民さんのおかげです。



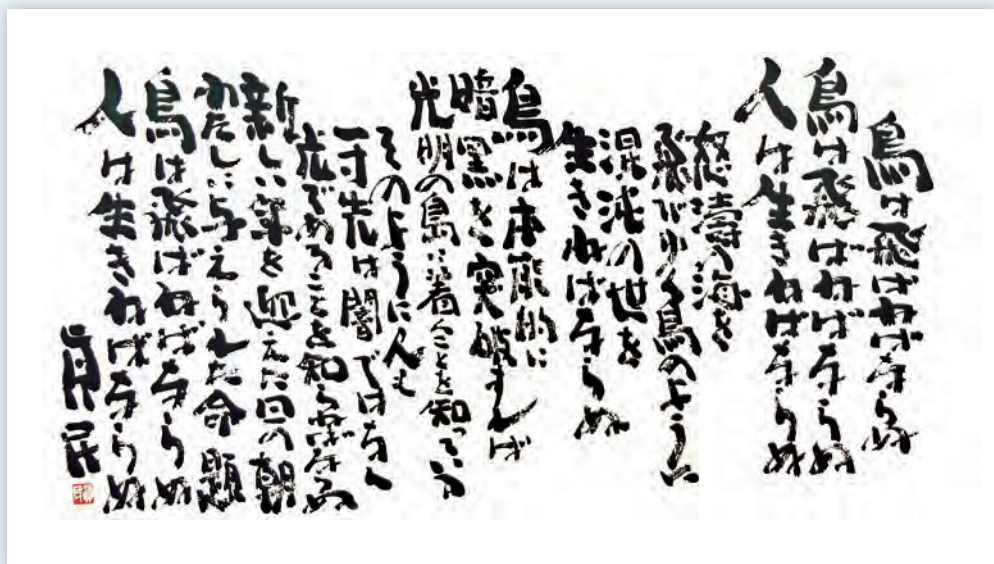
▲中村さん自作の手帳。「闇の向こうに光を見出す
“鳥は飛ばねばならぬ”の詩に支えられました」

▶中村さんに会館建設を決意させた
ご真言。百科事典の帯封に書かれた



強い信念と人間に対する希望の表れ

「鳥は飛ばねばならぬ」



この詩は、坂村真民が67歳を迎える年、昭和51年の元旦の朝に書かれ、その後修正を加えられてこの形になったものです。

その時の気持ちを後に随筆集「念ずれば花ひらく」の中で次のように述懐しています。

「わたしはあの天空を飛んでゆく鳥たちを思うと、人間に生まれたことが、むしろ不幸であつたような気さえしてくる。とくにわたしは酉年生まれだから、彼らに対して一族のような思いさえしてきてならず、年をとるにつれ、だんだん鳥になつてゆくようなふしぎな自分を発見して、びつくりすることがある。

(中略)

先にわたしが大きな意義といたつたのは、わたしの心の中に

起きてきた死生観の変化である。世

尊が80年の生涯を身をもつて示されたのは「人は生きねばならぬ」ということだつたのだと知つたのである。とかくわたしは今までよく人に「いつ死んだ方がいいのだ」といつてきた。またそれだけわたし自身も一時一刻を大事にして、詩精進してきた。今倒れても自分自身を責める何ものも持たないぎりぎりの線で、仕事をしてきた。詩は死であるともいつてきた。しかし本当の生、本当の死というものは、そんなものではない。もつと豊かなものだ。もつとキラキラしているものだ、もつと生き生きしているものだ、世尊その人をよく見よ、と自分に言い聞かせ、これまでとちがつた死生の車を動かしはじめたのである。」

この詩で真民が訴えているのは、一つは、人はどんなにつらく苦しくて、悲しくても、生まれてきた以上は「生きねばならぬ」ということと、も

う一つは、「闇の向こうには、必ず光がある」ということだと思います。

この詩は、東日本大震災の後、東北で被災された方々が、真民の詩を読んで、生きる勇気と希望をもらつた、と言つてくださる時、まず一番に挙げられる詩です。

「人は生まれてきたからには、生きなければならぬ」ということを、「生きねばならぬ」という強い断定の言葉として書いていますが、これは、「人間が生きる」ということは、各個人が「生きるべきか、死ぬべきか」などといった思案をする余地のない、誰にも疑問を抱かせることのない、既定の事だということを実感しているのです。そして、これは、坂村真民の強い信念と人間に対する希望の表れでもあると思います。

今の時代は、様々な困難が立ちほだかり、一寸先は闇のような時代であると感じている方も含めて、坂村真民が皆さんに訴えているのは、「生きる希望を捨てず、しっかりと自分の道を進んでほしい。生きていれば、必ず光が差して来る。」「自分を信じて、前に向かつて歩いてほしい。」ということだと思ひます。



開館5周年を記念して

『坂村真民記念館公式ガイドブック』改定版 ボリュームアップして 発行！

平成29年3月はじめ、『坂村真民記念館公式ガイドブック』の改訂版が発行されます。表紙や一部内容を大きく変更し、ボリュームアップしてお目見えます。ぜひ新しいガイドブックを手にとってみてください。

真民さんと記念館の 5年間を凝縮

今回の公式ガイドブックは、初版の内容を踏襲したページもありますが、新しく、この5年間に開催された15回の企画展・特別展（東京の相田みつを美術館での特別展を含めると16回）を詳しく記述しています。

また、所蔵作品とその解説コーナーは、詩墨作品のみならず、原稿用紙に書いた手書き作品も加わり、より充実した内容になっています。



●企画展・特別展の内容がすべてわかる

真民さんの人生に沿って年代ごとの特徴にスポットをあてた企画展や、ゆかりのある人とのコラボ展などがありました。一つひとつの企画展の内容を知ること、真民さんの世界をより深く理解できるようになっています。



●所蔵作品の紹介と解説がさらに充実

独特の味わいがある詩墨作品に、原稿用紙に書かれた手書き作品も加わり、西澤館長のわかりやすい解説が付いて、真民詩の魅力と背景がしっかり理解できるようになっています。



「砥部町と全国の真民ファンに支えられて完成」

初版と同様、この改版も、砥部町と全国の真民ファンの支援を得て発行。真民記念館を応援している地元企業や全国の企業の熱い想いを感じることができます。

【内容】

- 第一章：真民さんの人生
- 第二章：5年間の企画展・特別展
- 第三章：所蔵作品と解説
- 第四章：世界に広がる詩碑
- 第五章：坂村真民記念館と砥部町のご案内

監修／西澤孝一
(坂村真民記念館館長)

平成29年3月発行

A5判、168ページ
発行元／株式会社えひめリビング新聞社

価格／1000円(税別)
※坂村真民記念館や愛媛県内
主要書店でお求めください。

「東日本大震災と坂村真民の詩」

期間 平成29年3月4日(土)～6月11日(日)

東日本大震災の記録

- ① 岩手日報社と愛媛新聞社の報道写真は、圧倒的な迫力と衝撃で東日本大震災の記憶を呼び起こしてくれます。
・岩手日報社の写真……18枚
・愛媛新聞社の写真……2枚
・愛媛新聞(平成24年～28年3月11日)1面記事

- ② OGATSUネットワーク新聞(No1～4)
- ③ 砥部町及び社会福祉協議会職員の支援活動
- ④ 仙台市提供の被災記録写真……16枚
- ⑤ 被災者からのメッセージ(68通)
- ⑥ 阪井健二氏活動報告(坂村真民教え子)

熊本地震の記録

坂村真民の生まれ故郷の熊本で昨年発生した熊本地震について、被災状況の写真と被害の大きかった南阿蘇村(真民の親類が住む)の広報紙を展示する

- ① 写真家・長野良市氏提供写真……12枚
- ② 南阿蘇村広報紙
(号外、平成28年7月～29年1月号)

坂村真民の詩墨作品 10篇

「時間をかけて」(66歳)、「友への詩」(46歳)、
「うた」(69歳)、「共に」(50歳)、「せいーばい」(70歳)、
「つねに前進」(61歳)、「何かをしよう」(77歳)、
「鳥は飛ばねばならぬ」(66歳)、「飯台」(41歳)、
「あとから来る者のために(6曲屏風)」(92歳)

横田南嶺管長の揮毫作品 11篇

「訣別」(60歳)、「一切無常」(76歳)、「雨の音」(48歳)、
「花と星」(63歳)、「風の中で」(68歳)、「力のかぎり」(88歳)、
「生きてゆく力がなくなるとき」(44歳)、
「いつもいっしょ」(76歳)、「声」(74歳)、
「祈り」(77歳)、「光」(76歳)

今回の展示の見どころは

- ① 東日本大震災の記憶を圧倒的な迫力で蘇らせる「報道写真」
- ② 「いのちの大切さ」と「日常の幸せ」を詠った真民詩
- ③ 横田管長の「詩墨作品」
- ④ 各方面の人々の被災地支援活動の状況
- ⑤ 皆さんに「生きることの意味」、「生きることの喜び」を感じていただく。

企画展のお知らせ

「坂村真民の世界—すべての人に真民詩を ～ようこそ砥部町へ、ようこそ坂村真民記念館へ～」展のお知らせ

期間

第1部:平成29年 6月17日(土)～11月12日(日)
第2部:平成29年11月18日(土)～平成30年2月18日(日)

2017年9月30日から10月30日まで、砥部町の総合運動公園を中心として「第72回国民体育大会と第17回全国障害者スポーツ大会」が開催され、全国から選手や応援団として多くの皆さんが砥部町に來られます。

坂村記念館ではこの機会に、「こつこつと努力する大切さ」、「困難の中でも生きる希望と勇気を持つことの大切さ」を詠った詩や、「人生で色々なハンディを持ちながら、それを乗り越えて生きる人々へのエールを送る詩」を数多く書いている坂村真民の人となりとその詩を、多くの人に知ってもらうために、代表的な坂村真民の詩墨作品を全館で展示することとしました。

坂村真民の詩には、「試合に勝つことだけ」を求めるのではなく、「人間として成長すること」を願って、つらい、苦しい練習を重ねて、「人間としての生き方」を求め続けることを詠った詩が多数あります。そして、そうした詩を書くために、自分自身を厳しく鍛え、毎日「修行僧」のように生きた坂村真民の「生き方」も多くの人に

感動を与えるものと思っています。

また、全国の真民詩のファンの方々には、「家族への愛」、「生きとし生けるものへの愛」を詠った代表的な真民詩の詩墨作品を取り揃えてご覧いただけるように準備しております。坂村真民記念館にとりましても、開館から5周年という節目の年を迎え、今一度原点に立ち帰り、真民詩の真髄である「生きる希望と勇気」が湧いてくる詩を厳選して展示したいと思っています。

坂村真民の詩は、貧しいながらも心豊かな生活を求めた詩、どんなに苦しくても、悲しくても、生きる希望を持ち続けることを訴えた詩が中心です。

現代の日本人が、忘れかけようとしている生き方、考え方を、もう一度坂村真民の詩を通して思い出して貰い、皆さんの今後の生き方を考えるヒントにいただければ幸いです。どうぞ、多くの方々のご来館を心からお待ちしております。





経営理念

最大の会社より最良の会社
人さまに喜んで頂く仕事と自分づくりをする

[パチンコ店経営]

株式会社 宣翔物産

〒812-0857 福岡市博多区西月隈3-6-17 Tel 092-475-1151

[関連グループ会社]

株式会社 クリオ

ホテルクリオコート博多
〒812-0012 福岡市博多区博多駅中央街5-3 Tel 092-472-1111



『木は氣なり』

百年の木には百年の氣が宿り

千年の木には千年の氣が宿る

鳩寿四 真民詩

南木曾木材産業株式会社

〒399-5302 長野県木曽郡南木曽町吾妻1187 代表取締役 柴原 薫

TEL 0264-57-4000 FAX 0264-57-2006 <http://www.nagiso.co.jp> メール kao@nagiso.co.jp

砥部の地で、医療、看護、介護の三位一体を実現する砥部病院



介護付有料老人ホーム To-be

78居室/20㎡～24㎡(1F&2F)



住宅型有料老人ホーム
モンレーヴ砥部

18居室/2LDK 40㎡～90㎡(3F)

伊予郡砥部町麻生51-1(砥部病院横) TEL.089-969-0085 砥部病院ケアサービス株式会社

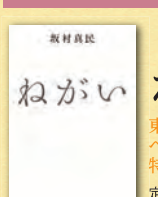
坂村真民記念館
所蔵の作品を満載!



定価=本体3500円+税

筆の詩墨の花

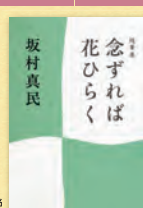
サンマーク出版



随筆集 念ずれば花ひらく
随筆集 めぐりあいのふしぎ
随筆集 愛の道しるべ

定価=本体各1800円+税

坂村真民の本



詩集 二度とない人生だから
詩集 宇宙のまなざし



定価=本体各1000円+税



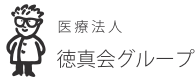
刊行から18年、
10万部突破の
超ロングセラー!

詩集 念ずれば花ひらく

サンマーク出版

〒169-0075 東京都新宿区高田馬場 2-16-11 <http://www.sunmark.co.jp>
TEL 03 (5272) 3166 FAX 03 (5272) 3167

いま届けたい、生き方の道しるべ



医療法人 徳真会グループ

TOKUSHINKAI QUARTZ TOWER 総合メディカルクリニック 徳真会クォーツタワー

徳真会グループは、36年の歴史をもつ国内最大の歯科グループ。
拠点の一つ、東京都渋谷区の徳真会クォーツタワーには最先端治療が行える歯科診療所に加え国内屈指の技術力を誇る歯科技工部門「ワールドラボ」を併設。
また同ビルの中の歯科と内科との連携により患者さまが安心して総合的で高レベルな治療を受けることができます。

歯科の特長 **DENTAL & MEDICAL** 内科の特長



- 他に類を見ない高レベルな「消毒滅菌システム」
- 「専属の歯科技工部門」が高品質の治療を支える
- 日本トップクラスの専門医が「あらゆる症例に対応」
- 情報開示を徹底した明朗会計で「安心の適正価格」



- 頭痛の権威、東京女子医大名誉教授(神経内科) 岩田誠先生の「頭痛外来」**A**
- ハーバード・パリ大学、根来秀行教授による時計遺伝子睡眠医学など先端の「アンチエイジング医学」**B**
- あなたは大丈夫? 「睡眠時無呼吸症候群」の検査・治療



総合受付 **03-6362-6688**

歯科 9:00~21:00 (年中無休)
内科 10:00~14:00 / 15:00~19:00 (年中無休)
※夏季・年末年始休業有



徳真会クォーツタワー



www.quartztower.com

〒150-0002 東京都渋谷区渋谷 2-10-10
徳真会 QUARTZ TOWER

〈フロアガイド〉

1.2F ピーシーデポ
スマートライフ青山店
03-5778-4671

4.5F 青山クォーツデンタルクリニック
03-6362-6688

3F クォーツホワイトデンタルクリニック
(オーラルケア・エステ・ホワイトニング)
03-6362-6683

7F クォーツデンタルクリニック
03-6362-6688

3F クォーツビューティ ネイル
03-6362-6693

8F クォーツメディカルクリニック
(内科・皮膚科・整形外科・泌尿科・免疫治療・生活習慣改善)
03-6362-6680

3F 整体院 癒庵堂
クォーツタワー店
03-3486-1900

9-12F クォーツギャラリー
03-6362-6691

坂村真民記念館友の会 会員募集中

坂村真民記念館友の会は、会員の皆様と記念館との交流を図り、記念館を共に支え、育てていくことを目的とした会です。入会された方には会報と、真民グッズなどの記念品を贈呈します。

パスポート会員 **特典** 会員証で入館無料1人 ほか
年会費2000円

一般会員 **特典** 会員証で入館無料1人 ほか
年会費5000円

特別会員 **特典** 会員証で入館無料2人 ほか
年会費10,000円

法人会員 **特典** 会員証で入館無料2人、
観覧券10枚贈呈 ほか
年会費10,000円

詳しくはホームページをご覧ください

坂村真民記念館 友の会

検索

〈編集後記〉 走り続けて5年目の3.11となりました。もうそろそろ、友の会の会としての活動を考えなくてはいけないと思っています。会員相互の親睦会的な集まりとか、情報交換会としての会とか、各地の会員同士の集まりとか、いろいろな思いを持っている方もいらっしゃると思います。是非アイデアをお寄せください。記念館のための会ではなく、皆さんの会です。(西)

タンポポだより vol.20 春号

平成29年3月1日発行 表紙写真：西澤孝一

発行元／坂村真民記念館友の会事務局

〒791-2132 伊予郡砥部町大南705 坂村真民記念館内

TEL089-969-3643 FAX089-969-3644

〔坂村真民記念館〕

開館時間／9～17時(入館は16時30分まで)

休館日／月曜(月曜が祝日の場合は翌日)、12月29日～1月1日

入館料／65歳以上300円、一般400円、高校生・大学生300円、
小・中学生200円 ※15人以上の団体は割引あり